

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000187		
法人名	非営利活動法人 楠の木会		
事業所名	グループホーム楠の木園		
所在地	佐賀県佐賀市川副町鹿江869-1		
自己評価作成日	令和3年10月18日	評価結果市町村受理日	令和4年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の思いを大切にしています。出来る限り自由に本人のペースで生活をして頂きたいと考えています。画一的な支援ではなく、個人個人の違いを理解し、利用者も職員も共に楽しく暮らすグループホームを目指しています。ゆっくり散歩をし、楽しく体操をし、テレビを見て、ウッドデッキに出たり、部屋で昼寝をする等それぞれが自由です。自分の家のように暮らしてもらいたい。遠慮せずその人にとってここが居心地の良い場所であるようにと願い努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平成15年1月に開設され、令和元年9月に、佐賀平野南部の有明海に近い半農半漁の集落の中にある現住の場所に移転している。建物は、平屋建てで、明るく広く隅々まで清掃が行き届いている。また、南向きの広いウッドデッキがあり、開放感と日光浴を楽しむことができる。小さな畑を耕し野菜の栽培も行っている。職員一同、楠の木園の理念である、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」を職員間で共有し、入居者個々の意向をできるだけ尊重するように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しむ」の運営理念を掲げ、利用者も職員も共に暮らし、生活の中に楽しみを見つけていこう、両者ともに心豊かに過ごしていこう、と その実践に努めている。	事務室内の目につく場所に、大きく理念を掲げている。朝の申し送り時や定例の会議で取り上げ、これまで理念の実践に取り組んできたが、現在は職員不足もあり、日々業務の遂行に追われ、業務に余裕がなく、理念の振り返りが不十分である。	職員不足の中でも理念の振り返りや共有が出来るように工夫することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者自身の参加は高齢でもあり、身体的にも難しい状況である。散歩の途中に挨拶や声掛けは積極的に行っている。地域に利用者が参加できる行事がない状況である。	地域の清掃作業に参加したり、隣家との付き合いは日常的にあり、野菜の差し入れや訪問等受けている。しかし、地域の自治会の参加はなく、回覧板も回ってきていない。	地域も過疎化し高齢化が進んではいけるが、自治会への参加と、ホームの存在を地域住民に周知し、広く地域住民との交流ができることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が参加する地域の掃除などの中で認知症の事、グループホームとは等の話しをしたり、いつでも寄って下さいと声掛け、運営推進会議への案内もしている。「園便り」の回覧をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや地域役員、利用者の家族の方々に参加頂き、サービスの内容や外出、行事等の報告、また意見交換の場としている。様々な声を聞き、サービスの向上に活かす様努めている。	コロナ禍で一時開催を見合わせた時期もあったが、最近では定期的に開催している。地域包括支援センターの職員や隣家の住民の参加があり、記録の整備もある。しかし、地域の役員や民生委員等の参加はない。	開催時間や日時等考慮し、地域の役員や民生委員等の参加を促して意見を聞き取り、サービス向上に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川副町支所にて毎月開催されている川副ネットワークに参加し、情報交換及び研修等により、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルの作成や研修により、身体拘束に関する知識の習得に努めており、禁止行為を理解している。日中は玄関、窓は開放し、夜間は玄関のみ施錠している。	定期的な会議や日々の業務の中で、職員は身体拘束防止のための知識や理解を深めており、日々の業務の中で実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その人らしい生活を支援するという介護の目的を職員一人一人が理解している。利用者の尊厳を守ることを意識し、無意識のうちに利用者を傷つける事の無いよう注意と努力をしている。研修等も受講。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者にとって最善と思われる支援について考え、それぞれの立場や義務を知り、情報の共有にも努めている。制度に関しては更に多くの場が必要であろうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、その内容を十分に説明し納得頂いている。改定の際には文書にて提示説明し、疑問や質問に応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が遠慮せず何でも言える環境でありたいと願っている。頂いた意見要望は出来る限り反映させていこうと努めている。ケアプランの説明の際や面会の際もその機会と捉えている。	日頃の介護の中で、入居者の意向の聞き取りに努めている。家族の訪問は多くはないが、園だより等作成し情報を提供している。また、行政とも連携を図り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で、疑問や意見があればいつでも言える聞ける状況である。法人全体の運営や提案に関しては、毎月開催の全体会議で発表検討をお願いしている。	職員は、会議や朝夕の申し送り時に自由に意見が言える雰囲気がある。管理者は、その意見を全体会議等で取り上げ、実現出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・労働条件の向上に努めようとの意思はあるが、成果としては不十分だと感じられる一層の取り組みを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に関しては、その機会の確保に努めている。職員一人一人に研修の機会を提示しているが勤務状況により参加できない事もある。職員の確保、勤務体系の整備も必要である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川副ネットワークの勉強会や講習会に参加し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に傾聴することから始め、ゆっくりと本人のペースに合わせた対応を心掛けている信頼関係構築の上では、共感と受容が大切だと理解し、その関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすい雰囲気や環境づくりに心がけ、要望等にはできる限り対応出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどんな生活を望んでいるのか、その生活を実現させるためには何が必要なのかを本人・家族とともに考え、必要な支援に結び付けるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする対等な人間としての関係を築いている。「お互いさま」の関係を築くことが、その人が遠慮なくものを言い、我儘も言え、我慢せず自分を出せる場所となると考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況状態に応じて家族との話し合いの機会を持ち、一緒に考えていく。職員の出来る事、家族にしか出来ない事、家族の立場を尊重しながら、お互いに協力をしていきたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親類の方などが気軽に尋ねて来て頂けるよう、挨拶や声掛け、その環境、雰囲気作りに努めている。	親族や知人の訪問時、再度立ち寄って貰えるような雰囲気作りに努めている。昔なじみで訪ねたい場所があれば、時間を作りドライブを行い、入居者の気持ちに寄り添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が気を遣わず、自由に暮らしていくことを大切に考えている。一人一人が重要な人であるとの認識が孤立を防ぎ、支え合う関係になると考えそのような関係作りの支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要時はいつでも相談に乗ったり、支援できる状態であり、こちらから関係を断ち切ることはない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の価値観、考え方の違いを認めてその人らしく過ごせるよう寄り添い支援していきと努めている。あくまでも本人が主体である事を忘れる事がないよう心している。	職員は、日頃の関わりの中で入居者の意向の把握に努めている。できるだけ穏やかに、自由に過ごして頂けるよう、個々に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中からの読み取りや本人・家族との会話を通してその人のこれまでの暮らしや習慣等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	壱日の流れの中で一人一人の過ごし方を見守り、コミュニケーションを取りながらその人の「今」の状態や変化、能力を見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月又はいつ様に応じてケア会議を行い、本人への説明を行い、ともに目標に向かっていけるように努めている。モニタリングは情報を共有し、職員全員で取り組み、次の介護計画に活かしている。	介護計画は必要時や定期的に、職員や家族の意見を聞き取り作成され、介護の現場で実践されている。しかし、介護計画だけの記録で、他の記録が不十分である。	モニタリング、再アセスメント、サービス担当者会議等、一連の記録の整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活での様子や気づきは個別に記録している。口頭や申し送りなどにおいても職員間での情報共有を図っており、実践や介護計画の見通しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や状態に対応しながら利用者にとって今何が必要なのか、何を必要としているのかを見極め、柔軟に支援できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の手続等においても、民生委員の方や市役所の担当者との協力の下で支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理のため月2回の訪問診療のほか、本人や家族の希望による病院への受信、歯の治療等もその状況に応じて適宜対応している。主治医との連絡相談できる態勢である。	往診による受診体制を構築している。家族の協力で、かかりつけ医の受診も可能となっている。医療機関との連携も取れており、適切な受診の支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の様子や体調、その変化等を看護師に相談している。情報共有し、個々の利用者の状態を把握することに努め、適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には病院とホームで情報を共有している。退院後の病院の指示が適切でないと考えられる場合においては、相談検討の場を設け、本人にとって最良と思われる支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、見取りの説明を行っている。重度化したり、終末期と意識できるような場合には家族・本人の意思の確認を再度行い、医師、看護師、介護職との連携を取り、チームで支援に取り組んでいる。	看取りの経験もあり、入居時の早い段階から看取りの指針に沿った説明を行っている。終末期の入居者の受け入れもあり、家族の付き添いも可能である。地元の医療機関と連携を取り、複数の職員で対応し不安の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	マニュアルや緊急連絡網を整備しているが、実際の応急手当や初期対応の十分な実践力を身につけるためには、より多くの訓練が必要であると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川副ネットワークによる防災マニュアルに沿った訓練を実施している。この地域に置いての情報がまだ不十分であり地域との協力体制の構築や災害対策は現在未熟である。取り組みを始めている所である。	避難訓練は川副ネットワーク防災マニュアルに沿って実施されているが、夜勤職員の参加は出来ていない。夜間想定訓練が未実施で、地域住民や消防団との連携はこれからの課題となっている。	火災訓練実施時、夜勤職員の参加と共に、災害対応避難訓練も想定した、地元住民との協力体制作りが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人として尊重し、誇りやプライバシー、羞恥心等に十分配慮するよう努めている。自分の発する言葉や動作をしっかり意識することが大事であり、相手の立場に立った支援を心掛けている。	職員は入室時ノックを行い、小声で穏やかに話しかけ、言葉遣いに注意している。排泄時等ドアをきちんと閉め、同性介助も心掛け、入居者の尊厳を守る支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮せずに自由に自分の思いを表せるよう、そのためにはどんな環境が必要か、どんな働きかけが必要かを個々の職員が考え、支援していくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの主体は利用者本人であることを職員はしっかりと理解し、ケアする側を優先することのないよう日頃より心掛けている。本人の希望、ペースに添いながら個々の違いを大切に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな色合いやサイズ、似合う衣類など自分で選べる方には好みのものでもらえるよう支援している。本人が買い物に行ける状況であれば、一緒に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お互いが助け合っているという意識を持つことを目指している。利用者も職員もそれぞれが力を持つことを知り、同じ生活者として楽しみを分かち合いたい。	食事は、配色を考え食べやすく、栄養バランスの取れた手作りを提供している。外食や嗜好品等も取り入れ、ウッドデッキでお茶を飲んだり、食事を楽しめる支援を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取や残量を確認し、その日の体調に配慮しながら支援している。水分に関しては、自由に好きな時に飲める状況である(水分制限のある方は除く)。熱い、冷たいは本人の好みに任せている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声掛け、誘導支援を行っている。必要な方には口腔ケアや治療等歯科の訪問診療を受けてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄、排せつの自立はその人の尊厳に深くかかわる部分なので、職員の倫理観、羞恥心への配慮などの向上も目指し支援している。トイレでの排泄を第一に考えている。	入居者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄介助に努めている。半数以上の方が布パンツで過ごしており、入居者個々の状態に応じてプライドを傷つけない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きしょうじにぎゅうにゅうやつめたいみずをのむことで、いちょうにしげきをあたえたり、お歩く事、動くことで蠕動運動を促したり、できるだけ薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望とペースに合わせている。身体洗い方も湯温もそれぞれの好みに合うような支援を心掛けている。入浴日以外の日であっても本人の状況状態によっては希望に添うようにしている。	週3回午前中入浴支援を行っている。本人の心身状況に合わせ柔軟に対応し、入居者が心地よく利用できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で自分の体調がわかる、セルフケアの大切さを重視している。本人の感じていることを慮ることが出来その環境を提供できるように支援する努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬の準備段階で、処方箋に目を通したり、薬の情報の確認をしている。服薬による状態の変化や用量等については見逃すことのないよう観察し、本人に本当に必要な薬なのか、医師への確認や意見を伝え、できる限り薬を減らす方向である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居する前の個々の生活を知り、好み、興味、それまでしていたことがあれば、出来る限り続けていけるよう支援をしている。嗜好品などの制限はしない(飲酒・喫煙等)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により時間が許せば、その希望に添うようにしている。利用者も職員も共にいろんな場所に出かけ楽しむことを目標にしている。外出や買い物、外食など適宜支援できるように努力している。	入居者の希望を出来るだけ取り入れている。職員の時間の余裕がある時や、家族の支援で、散歩やドライブ、買い物同伴、外食支援等の対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人よりお金を所持したいとの希望がある場合においては、可能であるが、日用品購入金額以上の万単位の場合は検討し、不可能な場合もある。本人の管理能力により判断しているため、本人にとっては不本意なこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればそれに沿う支援をするが、家族より拒否があったりと困難な場合も少なくない。本人の希望を出来る限りかなえたい可能な限りの努力をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自然にと考えている。低下はしていても本人の持つ能力を少しでも活用するために、過剰な暖房や冷房は避け、自然光や自然を感じて生活をしてもらいたいと思っている。	室内は臭いもなく清掃も行き届き、適切な室温管理に心掛けている。ゆったりと過ごせるソファを置き、開放感のあるウッドデッキが設けられ、お茶を飲んだり、日光浴等で活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で走れじれに自由好きに過ごせるように配慮している。一人で部屋に居たい時もある。本人次第の暮らし方の提供をと思っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物や使い慣れた物を持って来て頂いていいことを伝えているが、家族や身寄りのない方も多く、必要な物等は、本人と相談しながら購入し、少しでも心地よく過ごせるように取り組んでいる。	馴染みの物を持ち込むことが出来る他、必要な物等はホームが本人と相談し購入している。個々人で異なる居室づくりがなされており、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、テーブルやソファの位置などを配慮し、できるだけ安全に安心して移動できるよう、自立を支援できるよう工夫している。		